

もし、あの日の雨が もう一度降ったら—— 大切な人を守るために、今できること



▲昭和22年9月のカスリーン台風で浸水した旧栗橋町の様子（写真出典：利根川上流河川事務所）

水害を知る

過去の教訓から、 未来の備えへ

皆さんはカスリーン台風をご存じですか。昭和22年9月に発生し、久喜市にも甚大な被害をもたらした台風です。

カスリーン台風の運んできた湿った空の影響で、日本列島付近に停滞していた秋雨前線が活発化し、利根川流域と荒川流域の広い範囲に豪雨をもたらしました。降り続いた大雨により、現在の加須市にある利根川の堤防が決壊。荒川流域でも堤防が決壊し、氾濫した水は利根川の決壊地点から約60kmも離れた東京都江戸川区にまで到達しました。死傷者3,520人、家屋浸水約30万戸におよぶ甚大な被害が生じました。

カスリーン台風が もたらした被害

死傷者
3,520人

家屋浸水
約30万戸

カスリーン台風による被害から、令和9年で80年が経ちます。この教訓を風化させることなく、いざという時に自分や家族の命を守るよう、これから本格化する台風シーズンに向けて、今日から水害への備えを進めていきましょう。



▲利根川の堤防が決壊した地点（写真出典：利根川上流河川事務所）



▲堤防が決壊した地点の航空写真（写真出典：利根川上流河川事務所）

全国で頻発する水害

近年、日本各地で線状降水帯の発生や台風の大規模化などにより、毎年のように河川の氾濫や浸水被害が発生しています。昨年8月には、九州地方を中心に記録的な大雨が降り、河川の氾濫や道路の冠水、土砂災害などが相次ぎました。

身近なものでは、令和元年東日本台風（台風19号）が皆さんの記憶にも新しいのではないのでしょうか。線状降水帯により、利根川流域に豪雨が降り続き、利根川の水位が氾濫危険水位を超えました。氾濫こそ免れたものの、約9,000人の市民が避難所へ避難するなど、水の脅威が目の前まで迫りました。水害は、いつ、どこで発生してもおかしくない、私たちにとって身近な災害となっています。

久喜市の水害リスク

久喜市の北部は利根川に接しており、万が一利根川が氾濫すると、市内全域が浸水します。特に、栗橋・鷺宮では浸水の深さが2階床上にまで達することが想定され、甚大な被害が出る恐れがあります。また、市外を流れる荒川や江戸川などが氾濫した場合にも、久喜市への浸水の影響が想定されています。河川氾濫の他にも、排水機能を超える雨が降ると、雨水が流れず溜まってしまいうち水氾濫が発生する恐れもあります。氾濫する河川によって、浸水する地域が異なります。自分の住む地域はどの河川が氾濫した時に注意が必要なのかを日頃からハザードマップなどで確認しておきましょう。



▲利根川が氾濫した場合の久喜駅周辺における浸水想定（赤いテープの位置）

進む水害対策



▲工事後の栗橋地区の利根川堤防（写真出典：利根川上流河川事務所）

水害の被害が発生する恐れのある区間において、堤防の安全性を高めるため、国土交通省が「首都圏氾濫区域堤防強化対策」を進めています。利根川上流河川事務所によると、栗橋地区の盛土工事は令和5年度末までおおむね完成したとのこと。本市においても、台風や大雨時の河川の負担を軽減するため、学校の校庭を活用した雨水貯留浸透施設の整備などを行っています。

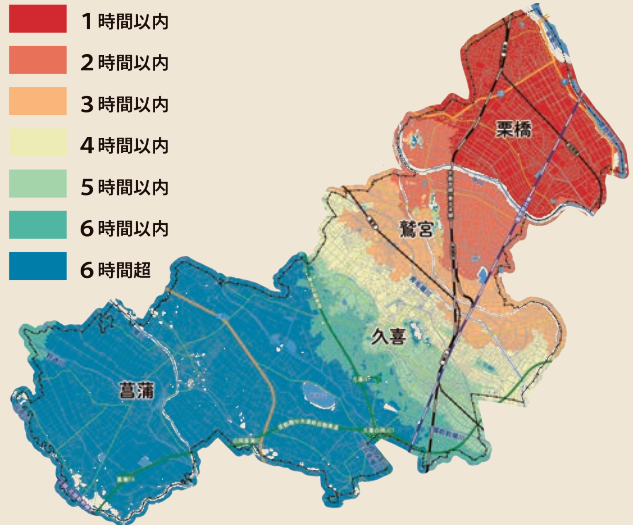
「令和の大改修」など対策は進んでいますが、災害を完全に防ぐことはできません。命を守るためには、一人ひとりの備えが必要不可欠です。



利根川が氾濫すると… 市内全域が浸水！

堤防決壊から浸水開始まで

- 1時間以内
- 2時間以内
- 3時間以内
- 4時間以内
- 5時間以内
- 6時間以内
- 6時間超



- 栗橋では95%以上、鷺宮では80%以上が、在宅避難困難となる。
- 氾濫から1時間で栗橋の大半、3時間で鷺宮の大半と久喜地区の一部に浸水が広がる。菖蒲地区は、氾濫が発生してから6時間以降に浸水。